

2019年度東北地区大学図書館協議会  
フレッシュパーソンセミナー  
2019年7月5日

# 大学図書館概論

佐藤義則  
(東北学院大学)

1

## 到達目標

- ① 大学図書館の設置根拠を説明できる
- ② 統計に基づき大学図書館の現状を説明できる
- ③ 大学図書館が持つ課題について説明できる
- ④ 今後の大学図書館の役割について説明できる

2

## ①大学図書館の設置根拠

- 大学設置基準(昭和31年10月22日文部省令第28号)
  - 1991年 大綱化と同時に、図書館に関する現在の規定に
  - さすがに古すぎて、時代にそぐわない(ネットワーク情報源, ラーニングコモンズ, 機関リポジトリ...)
  - しかし、どのように規定し直すのが良いのか?

3

## 第36条 (校舎等施設)

第三十六条 大学は、その組織及び規模に応じ、少なくとも次に掲げる専用の施設を備えた校舎を有するものとする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育研究に支障がないと認められるときは、この限りでない。

- 一 学長室、会議室、事務室
- 二 研究室、教室(講義室、演習室、実験・実習室等とする。)
- 三 図書館、医務室、学生自習室、学生控室

(中略)

6 夜間において授業を行う学部(以下「夜間学部」という。)を置く大学又は昼夜開講制を実施する大学にあつては、研究室、教室、図書館その他の施設の利用について、教育研究に支障のないようにするものとする。

(昭四八文令二九・一部改正、平三文令二四・旧第三十七条繰上・一部改正、平一五文科令一五・平一九文科令二二・一部改正)

4

## 第38条(図書等の資料及び図書館)

第三十八条 大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする。

2 図書館は、前項の資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、前項の資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めるものとする。

3 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする。

4 図書館には、大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えるものとする。

5 前項の閲覧室には、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。

(平三文令二四・追加)

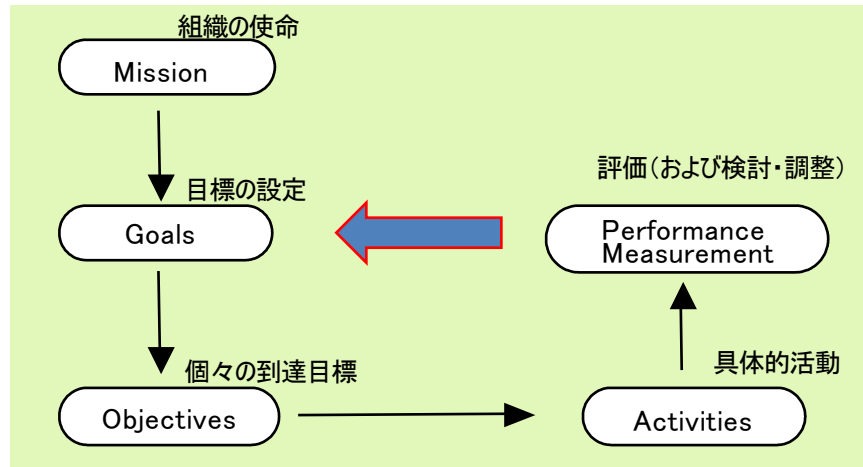
5

## 機関別認証評価との関連

- 大学基準協会による平成29年度機関別認証評価結果
  - 全47大学(公立大学, 私立大学)のうち, 7大学に対して改善指示
    - 根拠: 大学設置基準第38条第3項
  - 5大学:「図書館において、専門的な知識を有する専任職員を配置していなので、改善が望まれる」
  - 2大学:「キャンパスの図書館において、専門的な知識を有する専任職員を配置していなので、改善が望まれる」

6

## 図書館の経営サイクル



*Measuring Quality: International Guidelines for Performance Measurement in Academic Libraries.* IFLA Publications 76, 1996

7

Roswitha Poll, & Peter te Boekhorst. *Measuring Quality: Performance Measurement in Libraries. 2<sup>nd</sup> revised ed.*  
IFLA, 2007, 269p.

- 初版(1996年版):
  - 「大学図書館におけるパフォーマンス測定ガイドライン」
  - 17の指標
- 第2版(2007年版):
  - 大学図書館だけでなく、公共図書館をも対象
  - 40の指標(広範囲の情報源とサービスを対象、伝統的サービスと電子的サービス、サービス品質に関わるさまざまな要素を包含)

## パフォーマンス指標 (IFLA, 2007)の対象領域

- A. 情報資源、基盤 (Resources, Infrastructure): 図書館はどんなサービスを提供しているか
- B. 利用 (Use): サービスはどのように受容されているか
- C. 効率 (Efficiency): サービスは高い費用対効果で実施されているか
- D. 可能性と発展 (Potentials and development): 今後の発展可能性が充分に見込めるか

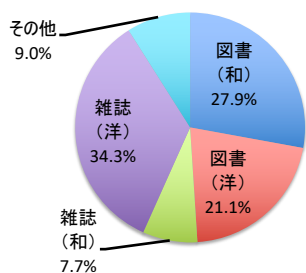
## ②統計に見る大学図書館の現状

1. 図書館資料費の割合の比較
2. 図書館資料費(全体)の推移
3. 図書館職員数の推移
4. NACSIS-CAT/ILLの件数推移

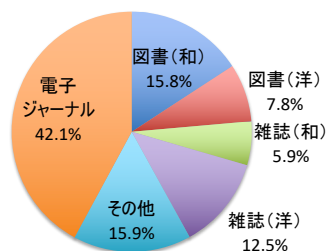
## 大学図書館は既に、デジタル、ネットワークの時代に

※学術情報資源実態調査(文部科学省)における大学図書館資料費の内訳

1998年(総額 = 75,282百万円)



2016年(総額 = 71,896百万円)



11

## 大学図書館資料費(全体)の推移

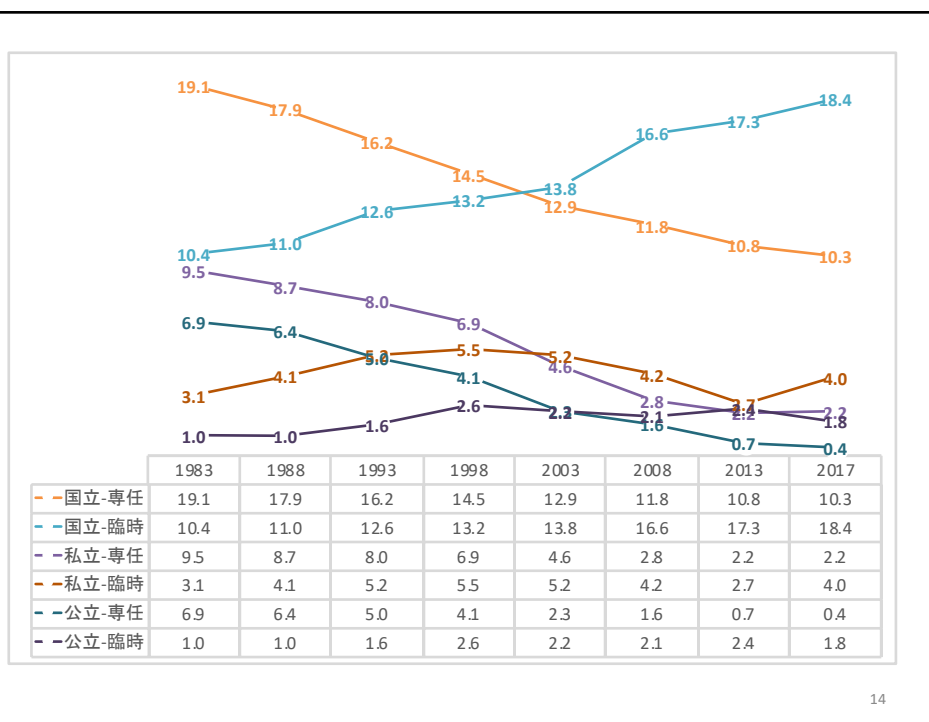
単位=百万円

年度	図書		雑誌		電子ジャーナル	その他	合計	図書館総経費に占める割合(%)	大学総経費に占める割合(%)	電子書籍
	和	洋	和	洋						
1986	15,423	14,805	3,845	15,806	-	2,877	52,756	45.9	1.7	-
1989	17,374	17,025	4,514	16,831	-	3,457	59,201	44.7	1.7	-
1992	18,985	18,244	5,253	21,314	-	5,701	69,497	43.8	1.6	-
1995	21,120	15,973	5,721	20,994	-	6,258	70,066	41.8	1.5	-
1998	20,982	15,898	5,801	25,833	-	6,769	75,282	41.8	1.5	-
2001	20,281	13,695	6,002	27,812	-	7,179	74,969	42.8	1.4	-
2004	18,614	11,286	7,334	33,431	6,198	5,722	82,585	43.9	1.4	-
2007	16,957	10,044	5,397	19,852	15,526	6,997	74,773	46.1	1.2	-
2010	15,817	8,019	4,865	12,599	20,714	9,536	71,551	46.1	1.1	650
2013	13,679	7,231	4,552	9,928	24,596	10,568	70,554	46.7	1.0	944
2016	11,372	5,578	4,272	8,988	30,242	11,444	71,896	45.1	1.0	1,267

12

## 図書館専門職数の推移(1983-2017)

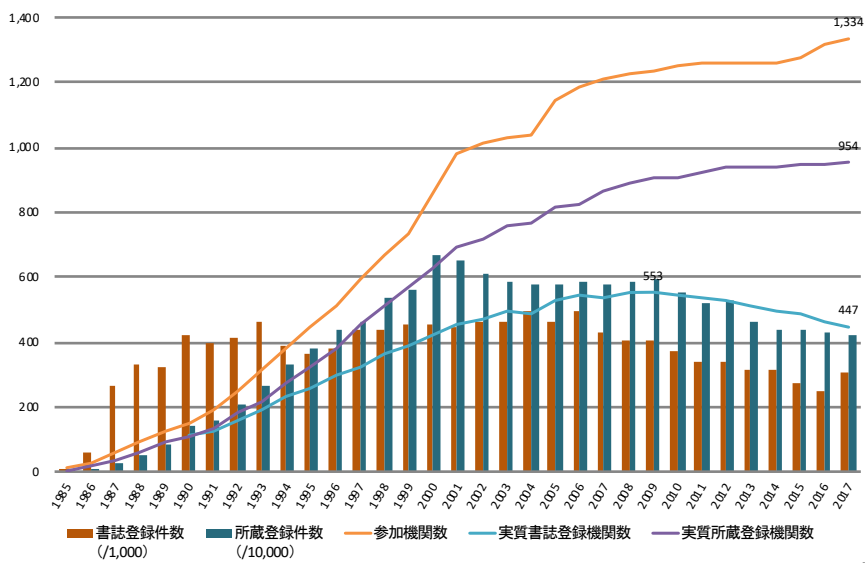
		専門全体			計
		大学数	専任	臨時	
1983	国立	93	1,773	967	2,740
	私立	326	3,111	1,010	4,121
	公立	34	235	35	270
1988	国立	95	1,698	1,042	2,740
	私立	357	3,112	1,473	4,585
	公立	37	238	38	276
1994	国立	98	1,572	1,211	2,783
	私立	406	3,098	2,103	5,201
	公立	48	245	89	334
1998	国立	99	1,434	1,305	2,739
	私立	444	3,048	2,440	5,488
	公立	61	250	159	409
2003	国立	97	1,247	1,340	2,587
	私立	526	2,426	2,711	5,137
	公立	76	176	170	346
2008	国立	86	1,019	1,431	2,450
	私立	591	1,668	2,481	4,149
	公立	75	123	156	279
2013	国立	86	933	1,485	2,418
	私立	605	1,332	1,607	2,939
	公立	83	54	199	253
2017	国立	86	884	1,581	2,465
	私立	608	1,310	2,252	3,562
	公立	89	146	270	416



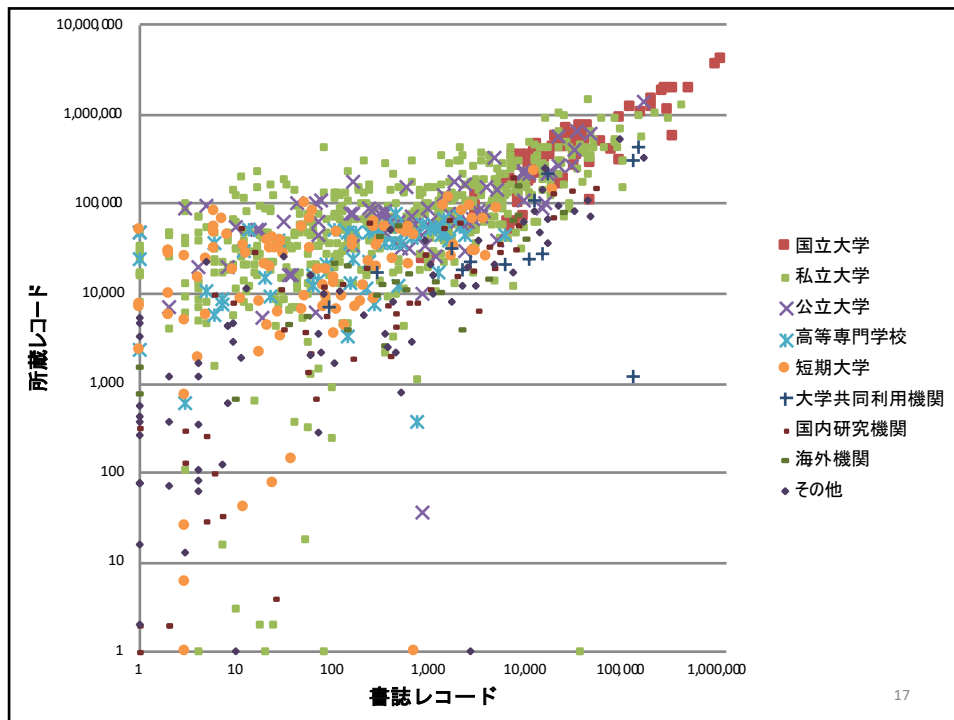
## 私立大学における業務委託の進行

	大学数	全面委託 大学数	図書館・室職員総数			業務委託 等人数	
			専任	臨時	計		
国立大学	2013	86	1	1,674	2,014	3,688	179
	2014	86	1	1,667	2,018	3,685	188
	2015	86	1	1,635	2,042	3,677	233
	2016	86	0	1,617	2,087	3,704	254
	2017	86	/	1,589	2,012	3,601	239
私立大学	2013	605	82	3,476	3,300	6,776	3,492
	2014	607	91	3,424	3,220	6,644	3,634
	2015	607	86	3,275	3,199	6,474	3,837
	2016	607	100	3,134	3,116	6,250	3,825
	2017	608	/	3,070	2,995	6,065	4,072
公立大学	2013	83	9	275	506	781	106
	2014	86	10	268	517	785	139
	2015	86	11	259	505	764	159
	2016	88	10	245	512	757	198
	2017	89	/	252	485	737	214

## NACSIS-CATの参加とDB構築の状況







### ③大学図書館の課題

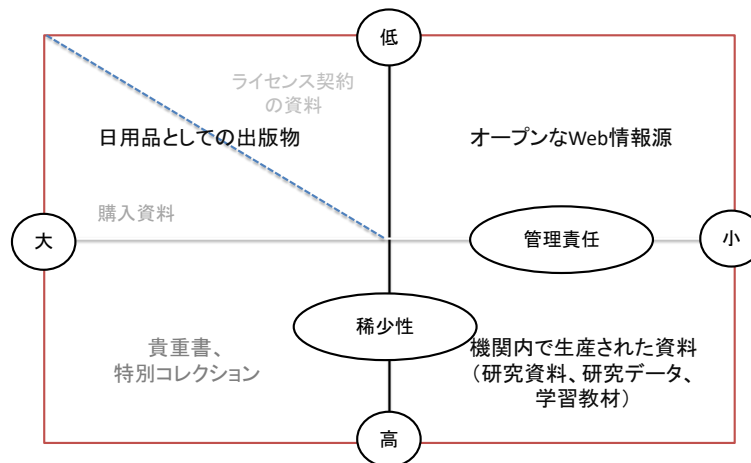
- 資料および教育・研究を取り巻くすべてのデジタル化
- 人員確保
- 予算
- オープンアクセス？
- 失われた10年(30年?)

## ④今後の大学図書館の役割

- 「大学図書館の機能」(Atkinson, 1989)
  - (1)報知機能(notification function)
  - (2)資料機能(documentation function)
  - (3)歴史機能(historical function)
  - (4)教育機能(instructional function)
  - (5)書誌機能(bibliographic metafunction)
- デジタルへの移行とともに、これらのすべての機能のあり方が変わる(変わらなければならない)

19

## コレクション・グリッド



参照: Malpas, Constance. "Scarcity and Abundance: the Cooperative Imperative in Special Collections," 53rd Annual RBMS Preconference, 20 June 2012.  
available at <http://www.oclc.org/research/presentations/default.htm>

20

## 印刷体資料と電子情報資源

	印刷体資料	電子情報資源
資料の在処	図書館内	図書館(内)外
利用対象	(同じものが多数, 印刷出版された)資料の一つ一つ	真正性(authenticity)を備えた, 単一(唯一)の情報源
アクセス	物理的所蔵に基づく	契約や協定に基づく
メタデータ作成	人手による確認、入力	(プログラム等による)既存データの有効活用
目録処理	共同分担目録(書誌データと資源の共有)	集中的作業(典拠データ、リンク形成)
課題	メタデータの品質レベル	保存 メタデータの品質レベル 永続的アクセスの管理 情報源間の関係性の整理

## 図書館コレクションの変化

- 館内所蔵から, ウェブ上の情報資源へ  
(所蔵からアクセスへ)
- 単独のコレクションから, 集合的コレクションへ  
(collective collection)
- 共有資源から, 公共財へ(?)
- 課題
  - 効率性, 持続可能性, 公平性の確保
  - コスト負担(誰が, どのように)
  - 保存問題, および真正性の確保(「信頼の枠組み」)

## 知識コモンズの経済学

		減少可能性(競争性)	
		低	高
排除可能性	困難	<b>公共財</b> オープンアクセス・リポジトリ 有用な知識, 夕焼け空	<b>共有資源</b> 図書館(紙媒体), 会員制のデジタル共有資源サイト, 灌漑システム
	容易	<b>クラブ財(自然独占)</b> 電子ジャーナル・プラットフォーム 電力会社, 鉄道会社	<b>私的財</b> 個人の蔵書(紙媒体) パソコン, 衣服, アイスクリーム

Borgman, Christine L. *Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World*. MIT Press, 2015.1, 383 p.; Hess, C. & Ostrom, E. (Eds.), *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. MIT Press, 2007, p. 9.; N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学. 第2版①ミク口編』東洋経済, 2005, p. 301-321.

## 知識コモンズの経済学

		減少可能性(競争性)	
		低	高
排除可能性	困難	<b>公共財</b> オープンアクセス? オープンアクセス・リポジトリ	<b>共有資源</b> Green OA HathiTrust, 図書館(紙媒体)
	容易	<b>自然独占</b> Gold OA EJプラットフォーム	<b>私的財</b> 個人の蔵書(紙媒体)

Borgman, Christine L. *Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World*. MIT Press, 2015.1, 383 p.; C. Hess & E. Ostrom (Eds.), *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. MIT Press, 2007, p. 9.; N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学. 第2版①ミク口編』東洋経済, 2005, p. 301-321.

## これからの課題

- 大学図書館の業務は、ますます集合的に
  - コレクションの共有, 維持・管理
  - 権利者との交渉(ライセンス契約, 著作権等)
  - そのために必要なマネジメント要素
    - 組織
    - 人材
    - 技術
    - 意思決定
- 国内的, 国際的な連携がますます重要に
  - ウェブ上での情報流通との関連
- 組織内部の視点と組織間での協調・連携のバランス

25